

# 第9回 江古田映画祭

# 2020 3.11 福島を 忘れない

©ガタロ

会場①

## 武蔵大学

東京都練馬区豊玉上 1-26-1

■12:00~

■1号館地下1002  
シアター教室

■予約不要

## 2/29(土)・3/7(土)

上映作品 ■福島は語る(完全版 330分)  
トーク土井敏邦 ライブ李政美  
参加費 2000円 / ハンディのある方 1000円 / 大学生以下無料

上映作品 ■日本一大きいやかんの話  
トーク矢座孟之進・西尾漢  
参加費 1000円  
大学生以下無料 ■東電刑事裁判 不当判決

会場②

## ギャラリー古藤

武蔵大学正門斜向かい  
東京都練馬区栄町 9-16  
江古田駅南口徒歩 6分

## 3/1(日)~3/12(木)

各回40名定員制  
予約優先入場

チケット

■映画 1本につき

大人 予約 1,000円・当日 1,200円

大学生・ハンディのある方 800円

高校生以下無料

大震災からの避難者は無料(受付で伝えて下さい)

■チケット 3枚つづり 2,700円

トークがある場合も上記料金に

含まれますが、トーク

のみは 500円

■武蔵大学永田ゼミ

制作作品は 500円

予約(大人)  
すると 200円  
割引です

お申込み

電話・メールでの予約を  
お願いします。

■メールアドレス

fwge7555@mb.infoweb.ne.jp

■03(3948)5328

■HPは「ギャラリー古藤」で検索

http://furuto.info

江古田映画祭 facebook ページ

「江古田映画祭」で検索

■主催 江古田映画祭実行委員会

■後援 みどりのまちづくりセンター

■協力 ★ギャラリー水・土・木

(練馬区小竹町 1-44-1 ☎3955-2508)

3月7日(土)~13日(金) 会期中無休

近藤あき子展

一たとえ天地が何回落ちようとも一

12:00~18:00(最終日 17:00)

★グリーンピープルズパワー

エシカルな電気をお届けいたします。

〒160-0022 新宿区新宿 2-4-2 カーサ御苑 903

TEL: 03-6274-8660

mail: info@greenpeople.co.jp

■福島は語る 土井敏邦監督 2018年 330分・170分

被災者たちの傷は癒えない。14人の現在進行形の「福島の声」を、4年かけて作品に仕上げた労作。完全版と短縮版を上映。今年度「文化庁文化記録映画優秀賞」受賞。

■藍色少年少女 倉田健次監督 2016年 130分

かつて子供だったすべての少年少女に捧げる物語。夏休み、保養活動として福島の子供達を招き入れる自然豊かな町一神奈川県藤野町一を舞台に、幸せの青い鳥探しが今始まる。

■失われた春 シイタケの教え 田嶋雅己監督 2019年 128分

原発事故によって汚染されてしまった森林と、原木椎茸という作物に焦点をあてる中から、里山がこれまで維持してきた循環システムの再生に向け、苦悩しながら立ち上がる人々を描く。

■キクとイサム 今井正監督 1959年 117分

福島会津磐梯山麓の農村を舞台に、混血児の姉弟が好奇と差別の中を明るく生きる姿を描いた映画。祖母役・北林谷米は数々の女優賞受賞、第33回キネマ旬報ベストテン第1位。

■ニッポニアニッポン フクシマ狂詩曲 才谷遼監督 2019年 113分

フクシマ県楢穂町役場に出向した男が見た現実とそこに巣くう逞しくも愚かで滑稽なニッポン人たち。混沌と諧謔。カオスの果ては希望か、絶望か。今だからこそ見るべき作品。

■はだしのゲン 山田典吾監督 1983年 107分

少年誌に掲載された中沢啓治作の漫画に基づいた映像化作品。ゲンの両親役に三國連太郎と左幸子。原爆で父と姉と弟を失ったゲンの逞しく生きる姿、一方原爆への怒りが込められる。

■お母さん、いい加減あなたの顔は忘れてしまいました 遠藤ミチロウ監督 2015年 102分

遠藤ミチロウのライブの旅と人々との対話を描くロード・ドキュメンタリーを追悼上映。ツアー中に故郷福島は大震災に直面、同郷の仲間と「プロジェクト FUKUSHIMA!」を始動する。

■相馬高校放送局「今伝えたいこと(仮)」を中心に 相馬高校放送局 2012年~18年 86分

福島の高校生・福島出身の大学生が制作した「今伝えたいこと(仮)」「相馬高校から未来へ」「これから。」「いつか壁が消えるなら」を上映。一人の生徒の視点を通じて何を伝えたのか。

■3.11 日常 わたなべりんたろう監督 2011年 75分

福島第1原発事故発生後の世界における生き方を問い、反原発活動を行ってきた京都大学・小出裕章助教へのインタビューを中心に構成したドキュメンタリー。

■核兵器の終わりの始まり アルバロ・オルス監督 2019年 56分

122カ国が核兵器禁止条約に賛成し、新しい時代が始まる。核兵器の歴史とICAN(2017年ノーベル平和賞受賞)の活動をさまざまなインタビューを通して辿る。

■払い下げられた朝鮮人 呉充功監督 1986年 53分

関東大震災に際し、6500人以上の朝鮮人が軍隊、警察、民衆に殺されたという歴史を、資料と証言で検証する。

■日本一大きいやかんの話 矢座孟之進監督 2019年 50分

2011年以降、原発を使うか否かの議論は止まるところを知らない。そんな中、賛成派と反対派の橋渡しをするために東京の高校生3人が立ち上がった。

■東電刑事裁判 不当判決 河合弘之監督 2019年 33分

福島第1原子力事故で被害を受けた住民約1万5千人からなる福島原発訴訟団と、福島原発刑事訴訟支援団の企画で制作した映画。不当裁判を海渡雄一弁護士が徹底解説する。

■武蔵大学永田浩三ゼミ 4作品 2019年 95分

「東電フリーの生活」(25分)「ヒロシマを語る・木元武陸允さん」(15分)「音が聞こえてくる世界」(25分)「多様性はパワーだ」(30分)